

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

NEWS健診だより

第8号

2023年9月1日
発行

NEWS健診だよりは、緊急作業に従事された方々の健康サポートのため、実施された健康診断結果等に基づくご報告や放射線の健康影響に関する研究活動の進捗などについて年1回お届けしています



Photo: いずみ9号とさいたまスーパーアリーナ

埼玉県健康づくり事業団が所有している胃部検診車の1台“いずみ9号”です。埼玉県中を走り回って活躍しています。後ろに見えるガラス張りの建物は、“さいたまスーパーアリーナ”です。コンサートやスポーツ競技に利用されています。先の東京オリンピックではバスケットボールの会場になりました。

■写真提供：公益財団法人埼玉県健康づくり事業団

目次	P 1	目次、健診機関担当者からのメッセージ
	P 2	NEWS 研究本部（安衛研）の紹介
	P 3	健診の種類（令和 5 年度）
	P 4	令和 5 年度の健診の流れ、健診受診時の交通費と研究協力に係る謝金について
	P 5	健診のすすめ –現在の福一での健康管理状況を踏まえ–
	P 6	知っ得 Vol.6 男性の更年期障害
	P 7	健診結果と質問票の回答などから得られた情報
	P 9	オンラインコミュニティ応援隊募集
	P10	染色体分析に基づく線量推定について –研究参加の皆さまへのご協力に感謝–
	P11	皆さまからのお声、健診だより第 7 号のアンケート「健康づくり」の結果

健診機関担当者からのメッセージ

一般財団法人君津健康センター

保健師 I. F. さん

弊社は 2017 年度より緊急作業に従事された方々の健康影響に関する疫学研究に参加させていただいています。皆様とお会いする機会は健康調査・健診の場ですが、医師共々、可能な限り寄り添いながら、お話を丁寧に伺うよう心がけております。「やっと受診できました。ありがとうございました。」とお礼の言葉をいただくこともあり、大変な思いをされた方々の安心と、健康影響の解明に、これからも変わらずかでも役立てばと願っています。



公益財団法人 福島県労働保健センター

菊池 誠一 さん

私ども公益財団法人福島県労働保健センターは、福島第一原発立地県にある労働衛生専門健診機関の使命として、平成 27 年 3 月の先行調査からこの健康調査・健診に全社を挙げて協力しております。最近はキャンセル率がとても低く、受診される皆様が数年に一度の健診機会をととても大切に思っている事を実感しています。福島県の為に力を注いでいただいた緊急作業従事者の皆様がずっと笑顔で暮らせるよう、皆様の健康を生涯にわたって見守りたく思っています。



公益財団法人埼玉健康づくり事業団

健康管理部 保健指導課 N.Y. さん

埼玉県健康づくり事業団では、緊急作業従事者様専用特別枠の受診日を設けて健診を実施しています。この健診を始めた当初はすべてが初めてのことで戸惑うことが多くありましたが、2011 年の震災当時の状況や想いを受診者の方と共有し、気持ちに寄り添うことを心がけて健診を実施してきました。最近では約 5 年ぶりにお元気で会いできる方も増え、とてもうれしく思っています。これからもこの健診スタイルを変えずに、特別枠の健診や相談を実施したいと思います。



一般財団法人日本予防医学協会 附属診療所ウェルビーイング毛利

千葉 香理 さん

健康調査・健診が開始された 2015 年度から実施に携わっております。安衛研と協力しながら、毎年よりよい健診実施ができるように工夫してまいりました。受診者様は、日程の調整が難しい中で受診されますので、スムーズに受診できるよう心がけております。健診を受診いただくことで、ご自身の健康管理に役立つだけでなく、緊急作業と健康影響の関係を明らかにする研究に役立っていますので、今後も健診受診を継続いただけたらと思います。



国立国際医療研究センター 溝上 哲也 医師

昨年より東京・錦糸町での NEWS 健診の問診と診察に携わっています。コロナ禍のためマスク越しでしたが、何人かの方から「前回の健診で病気が早く見つかったよかったです」、「気になっていたことがあったが、健診を受けて安心した」といった声を伺いました。震災から 12 年が経過し、加齢による健康管理のニーズも高まる中、本調査に期待を寄せてくださっていることがわかりました。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



NEWS 研究本部（安衛研）の紹介

本研究は、神奈川県川崎市にある独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所（以下「安衛研」という）の労働者放射線障害防止研究センター（以下「当センター」という）を研究本部として推進しています。本研究は、これまで厚生労働省の労災疾病臨床研究事業費補助金による応募型の研究として受託・実施してきましたが、令和6年4月より当センター指定研究として受託する運びとなりました。これにより、公募型による研究空白期間が解消されるなど、今後、調査対象者である皆様の長期的なフォローアップを押し進めるための地盤が強化されることになりました。当センターは主として次のような業務を行っています。



労働安全衛生総合研究所（安衛研）

1. 健診の支援

- ① 健診予約センターと受診希望情報を共有し、健診機関の受診可能日と受診希望日の日程調整を行います。
- ② 希望者が多い地域は集中健診日や会場健診日を設けて健診を行うよう健診機関に依頼しています。
- ③ 健診機関までの交通費計算を行い、お支払いの準備をします。



健診情報のデータ管理に関する会議

2. データ入力・管理

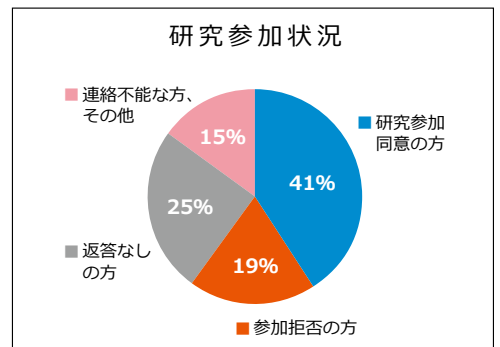
健診機関や検査業者からの健診結果を受領、データベースに入力し、研究計画にしたがって解析、および保管管理しています。



研究参加の呼びかけ

3. 研究参加の呼びかけ

- ① 毎年、健診予定者の方に対して受診の呼びかけをしています。
- ② 郵便調査により未返信の方への研究参加の呼びかけをします。
- ③ 健診だよりを年1回発行して情報をお伝えしています。
オンラインコミュニティ応援隊を運営して皆さまと情報交換を行います。



4. 研究参加状況の把握

令和4年度までの緊急作業従事者の研究参加状況は、全対象者 19,812 名のうち死亡や宛先不明などの連絡不能な方 2,954 名（14.9%）、返答なしの方 4,992 名（25.2%）、研究参加拒否の方 3,843 名（19.3%）を除く、8,023 名（40.5%）の方が参加されました。（2022 年 12 月 31 日現在）今後ともより多くの皆さまに参加していただけるよう努力をしておりますのでご協力をお願いいたします。

5. 検体の管理／保存

皆さまからの同意に基づいてお預かりしている貴重な血液や尿を将来の研究に資するためにマイナス 80℃の冷凍庫で保存しています。



バーコード読み取りによる検体管理

健診の種類 (令和5年度)

皆さまの健診サイクルにあわせて段階的にご案内をいたします。受診いただくためには研究参加への同意が必要です。所定の健診の費用は無料です。

多項目健診 (ベースライン調査・縦断調査)

4～5年に1回実施
所要時間は半日程度
全国約60の健診機関で受診できます

健診項目

血液検査

- 白血球 ●赤血球 ●血小板 ●肝機能
- 腎機能 ●尿酸 ●電解質(Na、K、Cl、Ca、P)
- 血糖 ●HbA1c ●中性脂肪
- 総コレステロール ●LDL(悪玉)コレステロール
- HDL(善玉)コレステロール

A B型・C型肝炎ウイルス検査(初回のみ)

B 甲状腺ホルモン検査

甲状腺抗体検査

C ピロリ検査(初回のみ)

胃X線検査 または

胃内視鏡検査(2回目以降)^{*1}

D 前立腺特異抗原(PSA)検査

尿検査

- 潜血 ●蛋白 ●糖 ●亜硝酸塩
- 尿中ヨウ素 ●尿中クレアチニン濃度
- 尿中Na

E 喀痰細胞診

F 便潜血検査

G 心電図検査

H 胸部X線検査

I 腹部超音波検査

J 甲状腺超音波検査^{*2}

その他

- 問診 ●質問票調査 ●診察
- 身体計測 ●視力・聴力等生理学検査
- 推定1日食塩摂取量

安衛則第44条と電離則第56条に基づく検査項目

*1) 胃X線検査、胃内視鏡検査は、受診機関によって実施していないところがあります。

*2) 甲状腺超音波検査は、受診機関によって実施していないところがあります。

基本健診

多項目健診を受診されない年に原則毎年実施
所要時間は2～3時間程度
全国約400の健診機関で受診できます

健診項目

血液検査

- 白血球 ●赤血球 ●肝機能
- 血糖 ●中性脂肪
- LDL(悪玉)コレステロール
- HDL(善玉)コレステロール

尿検査

- 蛋白 ●糖

G 心電図検査

H 胸部X線検査

その他

- 問診 ●診察 ●身体計測
- 視力・聴力等生理学検査

安衛則第44条と電離則第56条に基づく検査項目



◎健診待ちの方が多数いらっしゃいます。直近の健診のキャンセルは健診をお待ちの他の方への振替えができませんので、お控えくださいますようお願いいたします。

◎健康上の不安があれば、医師にご相談ください。必要があれば医師から紹介状を発行することもできます。

◎検査結果は、1か月程度でお手元にお届けいたします。

令和5年度の健診の流れ

すでにお申込みをされている方

今年度の健診案内（多項目健診、または基本健診）は郵送済です。お手元がない場合は右のフリーダイヤル、Eメール、ホームページからお問い合わせください。

初めてお申込みをされる方

電話、Email、ホームページからお申し込みください。

フリーダイヤル：0120-865-618（受付時間 9:00-17:00）

Eメール：info.newstudy@h.jniosh.johas.go.jp

ホームページ：https://www.news.johas.go.jp/hp/cooperate_flow.html

上記ホームページの新規登録ボタンからお申し込みください。



健 診

多項目健診

原則、初めての方 または4～5年前に多項目健診を受診した方が対象です。（例外もあります。）

健診内容は前ページをご覧ください。

基本健診

原則、多項目健診の受診年でない方

健診内容は前ページをご覧ください。

予約調整 健診機関、またはNEWS健診予約センターから予約調整のお電話をします。

予約申込 健診のご案内を郵送しますので、書類に必要事項とご希望日を記入してご返送ください。

ご案内 健診日の1週間～約10日前頃に健診機関から必要書類と検査キット等を送付します。健診当日までにご一読いただき、必要書類へのご記入と提出物を準備してください。

予約調整 予約が確定したら受診券を郵送します。ご希望日で予約できなかった場合はお電話で調整します。予約が確定したら受診券を郵送します。

健診当日 ご記入いただいた書類と指定された提出物をご持参ください。

健診当日 受診券と健診機関から指定された提出物（事前に送付された場合）をご持参ください。

結果報告

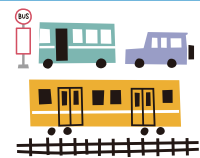
検査結果は、1か月前後をめぐにお手元にお届けいたします。

※健診の結果、精密検査が必要な場合は、ご自身の負担（保険診療）となります。

健診受診時の交通費と研究協力に係る謝金について

多項目健診と基本健診にかかる交通費と謝金をお支払いしています。

交通費は次のような原則に基づき計算されます。



起 点	交通手段	計 算 方 法
自宅・単身赴任先・勤務先等当日の出發地	①公共交通機関	受診する健診機関までの最も経済的に安価な経路及び方法によりルートを選択し、お支払いしています。
	②自家用車 またはバイク	受診する健診機関までの一般道の往復距離分の交通費を安衛研の規定により算出してお支払いしています。（高速料金としてお出ししていませんが、安衛研の算定方法の1km当たりの料金にガソリン代と高速料金を加味しています。）
	③徒歩・自転車	交通費のお支払いはありません。

*原則、県内、または隣県での受診をお願いしています。実際に負担されている費用と支払い金額に相違が生じる場合がありますが、厚生労働省の疫学研究に対する補助金より支出していますので、何とぞご理解とご協力をお願いいたします。なお、離島の方や近隣の健診機関までの距離が遠方となる方は個別にご相談ください。

健診のすすめ

「現在の福」での健康管理状況を踏まえ

産業医科大学 産業生態科学研究所 災害産業保健センター
立石 清一郎

東日本大震災に起因した福島原子力発電所の事故から12年が経ちました。産業医科大学は発災当初から発電所の作業員の健康管理のサポートを行っており、私はその事務局の役割を担い続けています。発電所は当時のような喧騒は収まり、普通の職場にかなり近づきつつある状況です。これも、NEWS健診の対象者となっている皆さまが、最も危機的な状況に現場に出向き、復旧・廃炉活動にご尽力いただいたおかげであると思います。

さて、原発構内では協力企業も含めた各社の安全衛生・健康管理の状況についても格段に改善がみられているところです。発災直後は、放射線障害（外部被ばく）や熱中症など古典的な労働災害のリスクが最も高い状況でしたが、これらの問題はかなり解決されるようになってきました。最近の課題は、溶融した燃料棒を取り出す際に飛散する、放射性物質（アルファ核種など）を内部被ばくすることでありその対策を万全なものにしようと各方面で準備が進んでいます。

健康診断に関連したこととして、放射線業務従事者に義務付けられている健康診断受診後に精密検査の指示が出ている人たちに対して、企業が積極的に働きかけることで確実に精密検査を受ける仕組み（受診率95～100%）が出来上がりつつあります。今では健康診断以外にもメンタルヘルス対策や新型コロナ対策、働き方改革、女性の働きやすい職場など主体的に健康管理を進めようとする企業が増えてきています。そのような企業を対象に、年に1回産業医科大学学長名で健康経営表彰を実施しています。



贈られた賞状

2022年度調査には48事業者が参加し、最優秀賞として日立GEニュークリア・エナジー（株）が受賞し、優秀賞として（株）報徳バス、五洋建設（株）、（株）ネクセライズが受賞しました。

受賞企業以外全体としての健康管理のレベルも向上してきており、福一内での内因性疾患（心筋梗塞・脳梗塞などの搬送が必要な重大臓器疾患）の発生が減ってきている状況です。

このように、健康診断を軸とした健康管理システムが十分に機能しており、作業員全員が働きやすい環境が整備されてきています。また、日本の健康診断のレベルは世界随一で、アジアを中心とした世界中から最高峰の日本の健康診断を受診したいとこぞって来日するメディカルツーリズムが活況を示しております。NEWS健診で実施されている健康診断の項目は各国から多大な費用をかけて訪日する外国人が受けている項目とほとんど

ど一致しています。復旧・廃炉作業に携わった方々のみ国費により無料で受診することができる特別対応で、世界的にもあまり例のない仕組みです。皆様もぜひ自らの健康を数年に一度見直すきっかけとして、通常健康診断よりも項目の多いNEWS健診を受診してみませんか。今後の高齢化の時代、長く働き続けることが必要になってきます。その時に皆様が最も大事になってくるのは自らの健康です。健康でなければ安心して働き続けることはできません。東日本大震災という我が国の重大な危機を救った英雄のひとりである皆さまが健康であり続けることを祈ってこの文章を寄稿いたしました。



2022年度表彰式での記念撮影。森晃爾教授（左端）、受賞された企業の皆さんと筆者（右端）

知っ得 Vol.6

男性の更年期障害



男性にも更年期障害が起こるということをご存じでしょうか。発症年齢は概ね40歳以降で、男性ホルモン（テストステロン）が減少し、身体や精神への様々な症状が出るといわれています。主な症状としては、原因のわからない体の不調、イライラ感、突然のほてりや発汗、ED（勃起不全）やうつ症状などで、日常生活に支障をきたす場合もあります。

男性と女性の更年期障害の違い

	原因	ホルモン	発症時期	期間
男性	男性ホルモンの低下	テストステロン	40歳代以降～	終わりがない
女性	女性ホルモンの低下	エストロゲン	閉経の5年前頃から	閉経後5年ほどで症状が落ち着く

男性更年期障害の治療は泌尿器科やメンズヘルス外来などで男性ホルモン充填療法を行いますが、男性ホルモンを低下させないための食事や運動を心がけましょう。

食事▶テストステロンの分泌を促す食品

- ・肉類 ・魚類（牡蠣、鮭、うなぎなど） ・たまご
- ・野菜（にんにく、ブロッコリー、玉ねぎなど） ・果物（バナナ、パイナップルなど）



運動▶大きな筋肉を動かす運動（目安：毎日10分程度）

筋トレ、階段の上り下り、キャッチボールやスポーツなど



ほかにも十分な睡眠やストレスをためないことなど、生活習慣を見直してできることから取り組みましょう！！

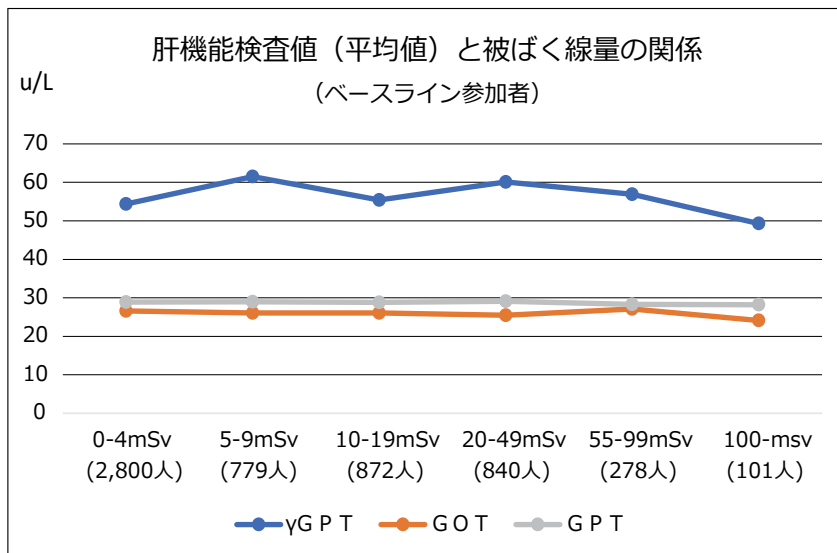
健診結果と質問票の回答などから得られた情報

本研究は開始以来9年が経過しました。放射線被ばくの健康影響の研究には、多くの研究参加者を長い年月観察することを必要とします。ここでは、これまでに研究に同意してご参加いただいた方々の現時点における健診結果と質問票の回答などの情報により得られた結果をご報告します。

1. 健診結果・質問票の回答から得られた結果

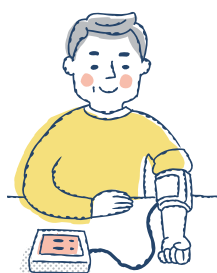
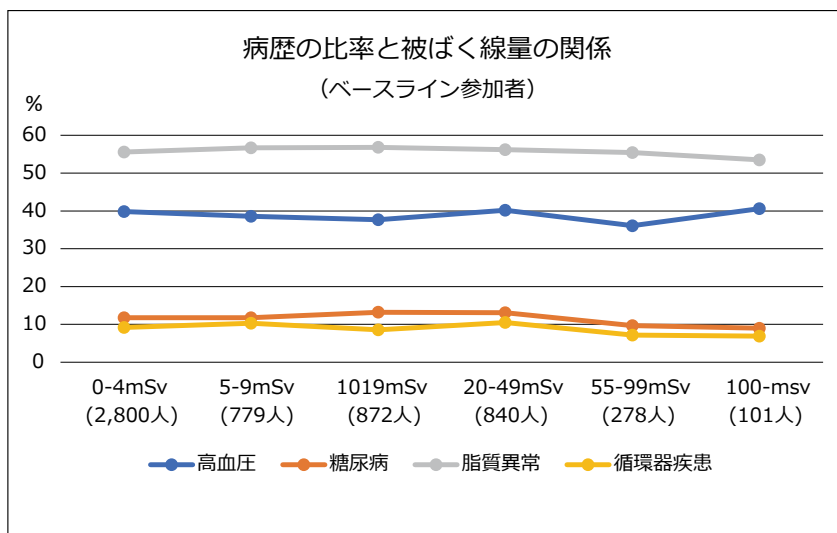
(1) 血液検査と被ばく線量の関係 ---2015年～2021年---

健診では末梢血検査、肝機能検査、腎機能検査等を行っていますが、被ばく線量区分による差は認められませんでした。代表例として肝機能検査（ γ GPT、GOT、GPT）の結果を被ばく線量別に折れ線グラフで示しています。



(2) 病歴の比率と被ばく線量との関係 (質問票の回答より) ---2015年～2021年----

自記式回答の病歴において、高血圧、糖尿病、脂質異常、循環器疾患などの病歴を記載された方の割合を被ばく線量別にみたところ、すべての項目において明らかな差は認められませんでした。



(3) 甲状腺がん調査（分担研究機関：大阪大学・自治医科大学・宮川病院） ---2022/10/31 時点---

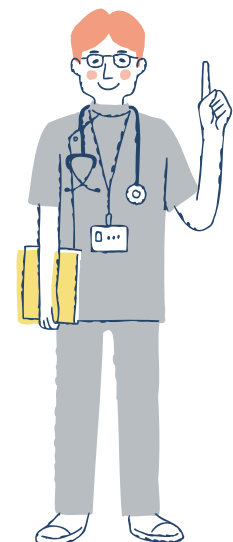
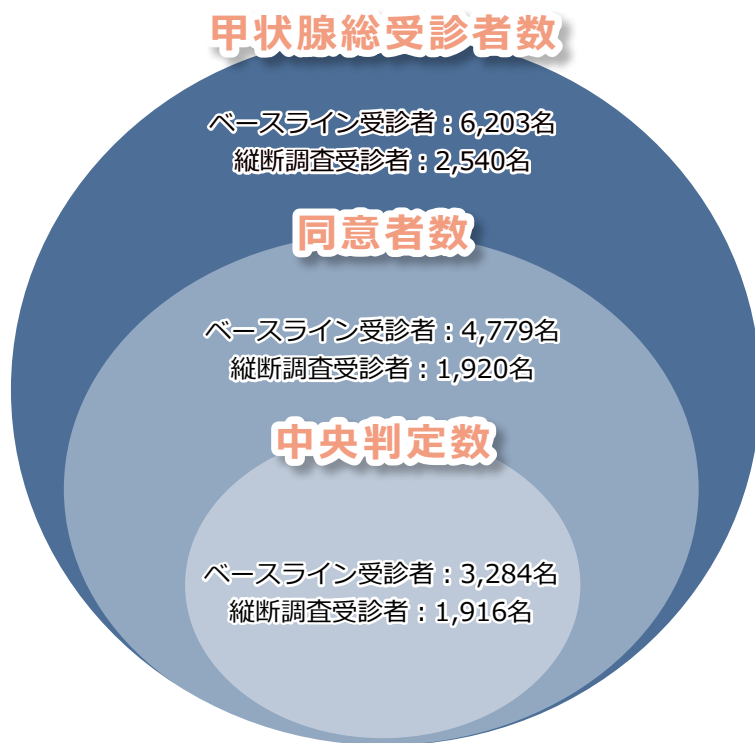
A. 甲状腺超音波検査（画像診断）

① 研究参加に同意した人数

甲状腺超音波検査に同意した人は、ベースライン調査の受診者 6,203 名の中で 4,779 名 (77.0%)、縦断調査の受診者では、2,540 名中 1,920 名 (75.6%) でした。

② 中央判定（※）を実施した人数（※自治医科大学精度管理委員会による判定）

ベースライン調査において中央判定を実施した人数は 3,284 名で、全健診受診者 6,203 名に対する割合は 52.9% でした。縦断調査で中央判定を実施した人数は 1,916 名で、全健診受診者 2,540 名に対する割合は 75.4% でした。



③ 中央判定の内訳

甲状腺超音波検査における中央判定で、B 判定（要二次検査）の割合はベースライン調査では 15.5%、縦断調査では 16.8% で、C 判定は 0 名でした。受診群別の判定は下の表のとおりです。

中央判定の受診群別割合

判 定	ベースライン受診者	縦断調査受診者
A1判定（異常なし）	45.2%	42.0%
A2判定（経過観察）	39.2%	41.2%
B 判定（要 2 次検査）	15.5%	16.8%
C 判定（直ちに 2 次検査が必要）	0%	0%

B. 甲状腺超音波検査の二次検査と、甲状腺機能・抗体検査（血液検査）と質問紙による既往歴を合わせて解析した結果（2022 年 10 月末現在）

健診時の血液検査と質問票の結果より、甲状腺疾患の既往歴、甲状腺機能の診断、自己抗体と甲状腺機能低下症等について集計を行っています。

- ① 甲状腺疾患の既往歴がある方は縦断調査受診者 2,540 名中 118 名 (4.6%) でした。
- ② 震災後に甲状腺がんにかかった方は全部で 30 名(確定 7 名、疑い 23 名)で、その割合(罹患率)は 0.5% でした。実効線量別では、50mSv 以上で罹患率が高い傾向がありましたが、線量が高い方のほうが検査を受ける回数も多く、そのために甲状腺がんを診断する機会が多くなるためと推察されます。
- ③ ベースライン調査時に超音波検査で結節^{*1)}のあった方は 15.2%、のう胞^{*2)}のあった方は 11.3% であり、血液検査で甲状腺機能低下症と診断された方は 3.5% でしたが、実効線量との間に明らかな関連は見られませんでした。

^{*1)} 甲状腺の細胞が変化したもので、「しこり」とも呼ばれています。結節には良性と悪性(がん)がありますが、多くは良性です。

^{*2)} 体液が溜まった袋状のものです。中には細胞がないので、がん化することはありません。

2. 全国がん登録の罹患率と同意された方のがん罹患率を比較した結果および死因調査 (分担研究: 京都府立医科大学、大阪大学) ---2016 ~ 2018 年、登録制度開始後の 3 年間 ---

(1) がん罹患調査

がんにかかった方の情報は、同意を頂いている方 7,537 名について国立がん研究センターの全国がん登録情報と照合して得られます。胃、肺、大腸などの固形がんが全体で 140 名、白血病・リンパ腫は 10 名未満^{*3)} でした。日本全国と比べた場合^{*4)} には、検診により発見されやすいがん、例えば前立腺がんや甲状腺がんが多い傾向が示されました。

^{*3)} 10 名未満については個人が特定されることを避けるために、具体的人数を記載していません。

^{*4)} 日本全国の罹患率を基準とした標準化罹患比という指標を用いて比較しています。

(2) 死因調査

お亡くなりになった際にその死因を調査させていただくという同意を頂いた方の情報については、厚生労働省が保管している死亡届の情報(人口動態統計調査票情報といいます。)と照合して調査します。

死因調査は今後 30 年を目途に調査を続けます。

オンラインコミュニティ 応援隊募集



オンラインコミュニティ応援隊とは?

本研究についてご理解いただき、応援隊に登録された方には次のような“応援”をしていただきます。

- ▶ 新しく開発するシステムのモニターをしていただきます。
- ▶ 年に 1 ~ 2 回のアンケートをお送りしますのでご回答ください。
- ▶ 年に数回ほどメールマガジンをお送りします。
- ▶ 希望者には生活習慣病のチェックができる検査キットをお送りします。
(この特典は本年度で終了します。)

応援隊の応募方法

同封のアンケート用紙【問 1】の①『申し込む』にチェックし、メールアドレスを必ず記載してください。
今までに応募されている方は、新たな登録は不要です。

染色体分析に基づく線量推定について —研究参加者の皆さまへのご協力に感謝—

NEWS 線量評価分科会

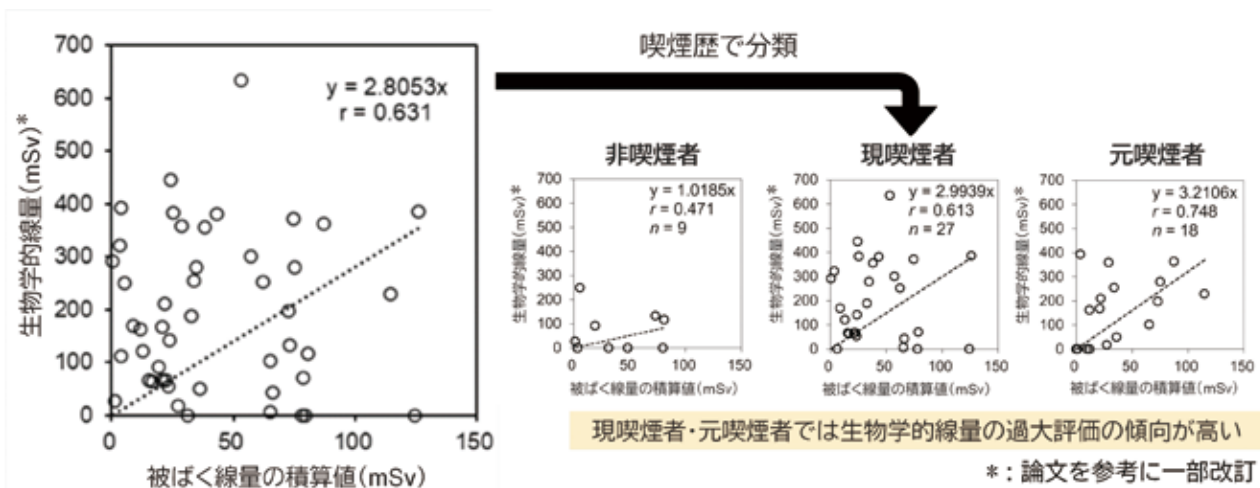
NEWS では東電福島第一原発事故の緊急作業に参加した方々を対象に、放射線被ばくによる将来の健康影響を調査しています。この調査では、個人の被ばく線量の評価が重要であり、NEWS 線量評価分科会では関係機関と協力しながら、既存の線量評価値の検証作業を進めています。また、血液中リンパ球の染色体分析に基づく研究も行い、平成 30 年度と令和 2 年度にそれぞれ 62 名と 54 名の研究参加者（健診時に染色体分析に関する研究についてご説明し、研究参加に同意された方々）から血液を提供していただきました。今回は平成 30 年度の予備調査の解析結果をまとめた概要を紹介します。

染色体は遺伝情報が書き込まれた DNA とタンパク質からできており、細胞の核内に存在します。染色体は様々な外的要因によって異常を生じることがあり、放射線もその一因として知られています。染色体異常の頻度は被ばく線量の増加と関連しており、この関係を利用して個人の被ばく線量を推定することが原理的に可能です。本研究では、長期間残存する安定型の染色体異常を FISH 法（蛍光 in situ ハイブリダイゼーション法）を用いて検出し、線量推計を試みました。

平成 30 年度に血液提供された 62 名のうち、1000 個以上の染色体を観察できた 54 名について、FISH 法による生物学的線量推計値と業務による被ばく線量の積算値（緊急作業以前に受けた線量も含む）を比較しました。結果は図に示されています。両者にはばらつきがありますが、緩やかな正の相関が見られました。ただし、生物学的線量は喫煙や飲酒などの生活習慣の影響も受けるため、個人線量計の数倍過大評価する傾向があります。そこで喫煙歴によるグループ分けを行ったところ、非喫煙者のグループでは過大評価の傾向が低く、現喫煙者や元喫煙者のグループでは過大評価の傾向が高いことが明らかになりました。また、CT 検査などの医療被ばく歴との関連も調べた結果、検査回数が多いほど、安定型染色体異常の頻度が増加することが確認されました。この結果は、放射線防護分野の学術雑誌に論文として掲載される予定です。

本研究は、緊急作業員の被ばく線量を評価するためのデータ提供や、将来の放射線・核災害に備えるために被災者の被ばく線量推定法を確立するという目的で行われました。研究参加者の皆様や健診機関、関係者のご協力に感謝の意を表します。

生物学的線量と被ばく線量の積算値との比較及び喫煙歴による違い



染色体分析に基づく線量推定について、詳しく知りたい方はホームページをご覧ください。
 URL https://www.news.johas.go.jp/hp/radiation_dose_evaluation.html



皆さまからの声

いつも貴重なご意見をありがとうございます。これからも調査研究に活かしてまいります。

- 1** 検査、検診を受けた方の感想、受診の際のイメージなど、経験者の声を聞けると良いと思う。

A 本誌面などで今後掲載するよう検討いたします。
- 2** 地域の健診や職場で受けた健診結果を送信して活用することはできませんか。

A ご本人からのお申し出があれば、郵送で受け付けています。その場合、受診1年以内の健診結果をコピーして安衛研（下記の住所）にお送りください。匿名化したうえでデータを活用させていただきます。
- 3** 研究結果が積極的に発信されていないと感じる。良い事、悪い事、小さいことも含め事実をしっかり伝えて欲しい。

A 現在、本研究を開始して10年目となりますが、全国的な大規模疫学調査では通常、長期間にわたってデータを集積して初めて得られるもの（例えばがん罹患率等の確率的影響の有無）が多くなります。現在発信できることは、7～9ページに掲載していますのでご覧ください。
- 4** 健診の申し込み方法がわかりません。

A 今までに受診したことのない方は、電話、Eメール、ホームページからお申し込みください。すでに受診したことのある方は、年度毎に多項目健診・基本健診に分けて、順次こちらから郵送でご案内いたします。詳しくは、4ページをご覧ください。
- 5** 健診できる機関をもっと増やしていただきたい。

A ご迷惑をおかけしております。お近くの健診協力機関を増やすように努めています。

健診だより第7号のアンケート「健康づくり」の結果

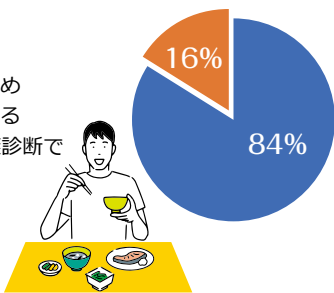
1,532名の方からご回答をいただきました。その集計結果を次のとおり報告します。

1. 「健康づくり」について

■ 何かしている ■ 何もしていない

■ 主な理由

- ① 健康寿命のため
- ② 体力をつけるため
- ③ メタボが気になる
- ④ 医者から／健康診断で指摘された



■ 主な理由

- ① 理由はない
- ② 時間／気持ち／経済的に余裕がない
- ③ 運動が苦手
- ④ 病気のために動けない



2. 何かしていると答えた方の内訳ランキング

1	ジョギングまたはウォーキング
2	ストレスを溜めない
3	趣味を持つ
4	お酒を控える
5	食事制限
6	筋トレやストレッチ
7	スポーツジムに通っている
8	禁煙
9	花・野菜などの作物を育てている

「健康づくり」に取り組んでいる人が8割以上でした。内訳は様々で、工夫して頑張っている印象です。

9の「作物を育てる」では、野菜や花などの収穫物を周囲の方たちお分けして喜んでもらっているというエピソードもあるなど、皆様のお元気な様子を嬉しく拝見させていただきました。

*この結果はアンケートを回答された方の結果を集計したもので、すべての対象者の結果ではありません。



東電福島第一原発緊急作業従事者コホート
「放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究(NEWS)」

〒214-8585 神奈川県川崎市多摩区長尾6-21-1

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 労働者放射線障害防止研究センター

お問い合わせ先（土曜、日曜、祝日を除く）
午前9時から午後5時

☎ 0120-865-618（フリーダイヤル） 繋がりにくいときは TEL 044-865-6111

e-mail info.newstudy@h.jniosh.johas.go.jp



ウェブサイト <http://www.news.johas.go.jp/>

